

世界に翔く宮崎牛

<http://miyazaki.lin.go.jp/index.html>

2003年4月号 No.35



大活躍の本県出身 中山悟志選手(ガンバ大阪(写真左))
U-22(22才以下)日本代表候補へ「宮崎牛」を贈呈。
(2月24日 宮崎市キャンプ)



第100回宮崎銘柄牛枝肉共進会開催風景
(2月27日 ミヤチク高崎工場) (本誌 2P)



県畜産試験場(高原町)の桜並木



第100回宮崎銘柄牛枝肉共進会で、グランドチャンピオンに輝いた黒木輝也さんと民子さんご夫妻
(本誌 2P)

2003年4月号 目次

● 地域情報

第100回宮崎銘柄牛枝肉共進会を開催 from.経済連 2

肉用牛生産者意見交換・交流会を開催 from.畜産会 2

牛肉トレーサビリティ法案の検討状況について from.県畜産課 3

● 生産技術等情報

哺乳ロボット(自動哺乳機)について from.経済連 4

高度雌牛肥育技術紹介 from.経済連 4

21世紀の「宮崎牛」はどうなるの?!～繁殖牛飼養者意向調査結果第6報～ from.県畜産課・子牛基金協会 5

■ 種雄牛情報

～平成14年度直接検定合格牛紹介～ from.家畜改良事業団 6

■ 飼養管理情報

ルーメン発酵について from.NOSAI連 8

● 今後の行事予定

(登録検査日程・子牛セリ日程) from.家畜登録協会 8

● 畜産環境情報

家畜排せつ物法について from.畜産会 (別冊)

情報誌「世界に翔く宮崎牛」発行協賛団体

●宮崎県経済農業協同組合連合会 ●宮崎県肉用子牛価格安定基金協会 ●宮崎県家畜改良事業団 ●宮崎県家畜登録協会 ●宮崎県畜産会

第100回宮崎銘柄牛枝肉共進会を開催

第100回宮崎銘柄牛枝肉共進会を平成15年2月27日、(株)ミヤチク高崎工場で開催しました。

共進会には県内12JAより選抜された101頭が出品され、JA西都肥育牛部会の黒木輝也さん(55)がグランドチャンピオンに輝き、その後のセリで1キロ当たり1万2千10円(598万2千円)と高値取引されました。

前日にはワールドコンベンションセンターサミットにて生産者や宮崎牛取扱業者ならびに関係者ら250名出席による記念式典があり、歴代のグランドチャンピオン獲得回数の上位者であるJAはまゆう肥育牛部会の藤元次夫さん、古澤良広さん、JA尾鈴肥育牛部会の黒木生子さんが県知事賞の表彰を松形知事より受けられました。



入賞	農協名	出荷者名	性別	血統			生年月日	生体重量(kg)	DG(kg)	枝肉重量(kg)	歩留等級			BMS	等級	単価(円)	販売金額(千円)	購買者名
				父	母の父	母の祖父					ロース芯(cm ²)	バラ厚(mm)	皮下脂肪(mm)					
グランドチャンピオン	西都	黒木輝也	去勢	隆桜	紋次郎	糸波	H12.11.10	752	0.83	498.1	70	96	32	11	A5	12,010	5,982	(株)ミヤチク
2席	尾鈴	古川信夫	去勢	上福	福桜	糸秀	H12.10.7	682	0.73	441.9	60	83	32	11	A5	8,210	3,628	(株)松源
3席	はまゆう	古澤良広	去勢	安平	菊安	糸秀	H12.9.25	750	0.74	473.4	78	88	18	10	A5	6,680	3,162	(株)尾園
4席	はまゆう	谷口畜産	去勢	安平	福茂	菊照	H12.8.6	746	0.69	460.8	61	90	20	10	A5	5,070	2,336	(株)ミヤチク
5席	宮崎中央	小倉光彦	去勢	安平	隆桜	糸弘2	H12.9.19	750	0.83	492.3	71	84	24	10	A5	4,640	2,284	(株)ヨシモト 自肉産業
6席	西都	杉本信次	去勢	安平	隆桜	糸弘2	H12.7.9	762	0.72	493.8	76	80	24	9	A5	4,000	1,975	(株)ミヤチク
7席	都城	増田 宏	去勢	照萩	福桜	糸秀	H12.6.21	708	0.72	442.9	55	83	30	9	A5	3,960	1,754	(株)ミート コンパニオン
101頭平均値								704	0.70	450.1	60	81	28	5.8		3,054	1,381	
第99回(平成14年6月開催)の平均値								708	0.67	456.7	61	81	29	6.4		2,209	1,009	

肉用牛生産者意見交換・交流会を開催

宮崎県畜産会の主催で第3回肉用牛生産者意見交換会・交流会を2月7日(金)、小林市のガーデンベルズ小林に於いて開催しました。

この会は、平成12年から開催し今回が第3回となりますが、地域の肉用牛飼養の中核的な生産者を対象としてグループ化を図り、経営者のニーズの把握と情報提供及び検討会等を通じて支援体制の強化を図るものです。

今回は、県内の中核的な肉用牛繁殖経営農家と肥育経営農家をはじめ、県畜産課、県営農指導課、小林市畜産課、関係農協担当者など多数の方が参加しました。

意見交換の前に、小林市営牧場を視察しましたが、当牧場は平成12年度に全国肉用牛経営発表会で農林水産大臣賞を受賞し、その中で公共牧場の有効利用が地域畜産振興に大きく貢献していることが高く評価されました。現在は乳用牛や肉用牛の育成とともに、黒毛和種の不受胎牛のリハビリセンター(常時70頭)、更に小林市受精卵センター(ドナー牛10頭を飼養して採卵)として酪農及び和牛繁殖農家に受精卵を供給しています。

視察後、小林市畜産課山縣課長の「畜産組織と市営牧場の活用による畜産振興」の講演や県営農指導課福留専門技術員の技術情報提供や先進経営の情報をもとに今後の肉用牛振興や生産性向上対策等の意見交換を行いました。

その後、畜産会における経営指導の更なる充実を図るために、中央畜産会が実施したコンサルの有料化等に関するアンケート結果を報告し、生産者の率直な意見を伺いました。

意見交換の後、交流会を実施しましたが、堀小林市長も出席され、歓迎の言葉と肉用牛の種雄牛の「安平号」を高く評価され、今後も肉用牛振興に一丸として取り組んで頂きたい旨あいさつの後、活発な交流が行われました。



牛肉トレーサビリティ法案の検討状況について

I 趣 旨

牛海綿状脳症（BSE）の発生や牛肉偽装事件等を契機に、国民の牛肉に対する信頼性が大きく揺らぐ中で、BSEのまん延防止措置の的確な実施や牛肉の安全に対する信頼確保を図るため、牛を個体識別番号により一元管理するとともに、生産から流通・消費の各段階において当該個体識別番号が正確に伝達されるための制度を構築する。

II 概 要

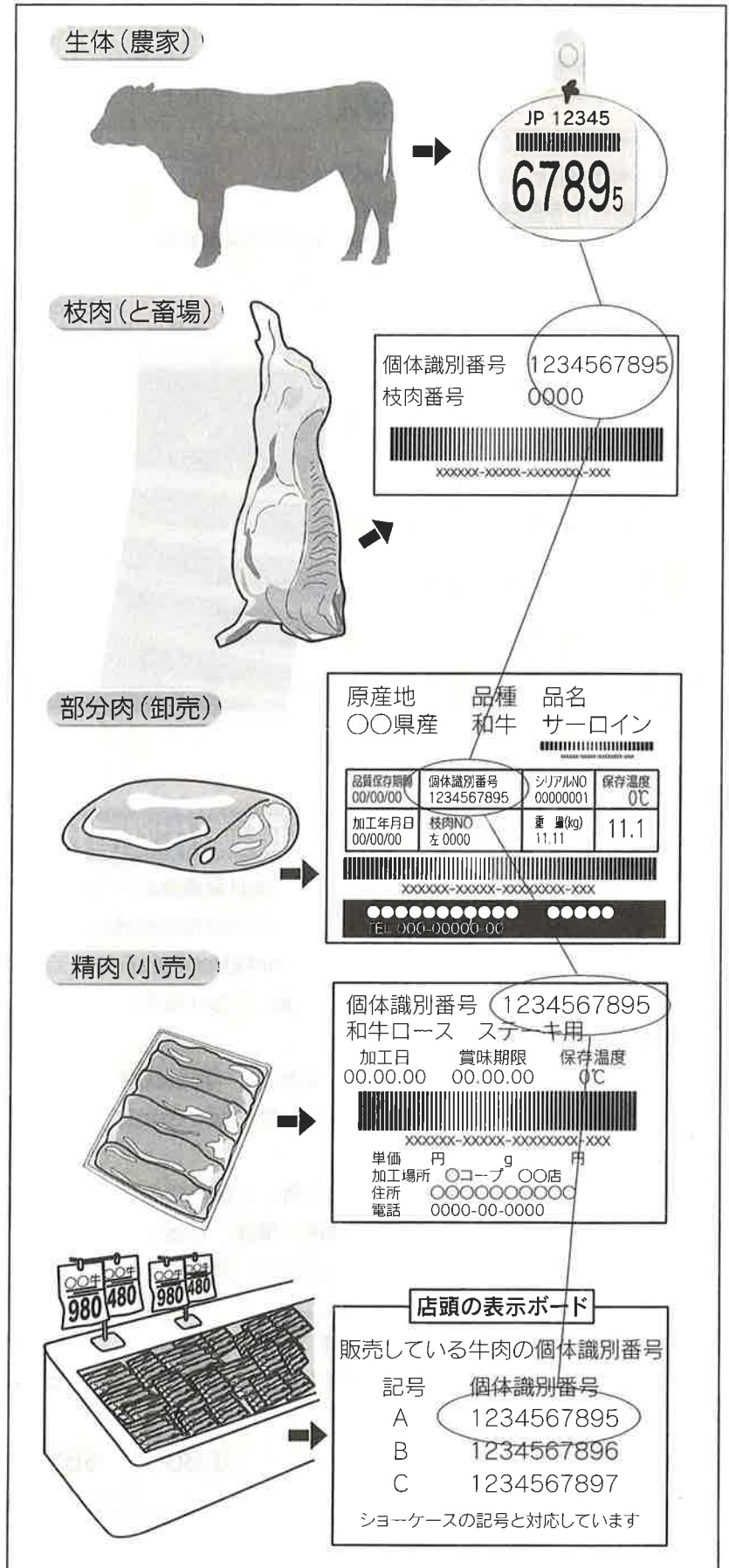
1 生産段階の措置

- (1) 牛個体識別台帳の作成
- (2) 牛の所有者（又は管理者）によるセンターへの届出等
- (3) と畜者（牛をと殺した者）によるセンターへのと畜年月日等の届出
- (4) 牛の輸入者によるセンターへの輸入年月日等の届出

2 流通段階の措置

- (1) 対象牛肉
 - 牛個体識別台帳に記録されている牛に由来する牛肉
- (2) と畜者（牛をと殺した者）の講ずべき措置
 - (ア) 牛肉の引渡し先への個体識別番号等の伝達
 - (イ) 伝達情報の記録・管理（3年間）
- (3) 牛肉販売業者の講ずべき措置
 - (ア) 販売先への個体識別番号等の伝達
 - (イ) 伝達情報の記録・管理

個体識別番号等の表示・伝達のイメージ



哺乳ロボット〈自動哺乳機〉について

最近、和牛生産農家の大型化に伴い哺乳作業を自動的にやってくれる自動哺乳機（哺乳ロボット）の利用が注目されてきています。

また、個体識別装置を利用し代用乳を自動給与させることにより、個体毎に給与時間・給与量を設定し、必要に応じて薬剤や生菌剤なども添加することが可能であります。

メリット(利点)	デメリット(欠点)
①哺乳作業の省力化が可能 ②少量多回哺乳による食事性の下痢の減少 ③群行動に伴う固形飼料への早期馴致 ④心肺機能・足腰の発育の促進（牛房を広くするため） ⑤離乳時の疾病が少ない ⑥水のがぶ飲みによる事故が少ない	①自動哺乳機の導入コストが高い（外国製であるため） ②疾病の伝播が速く、蔓延しやすい ③馴致に手間と忍耐が必要である ④発育のばらつきがやすい ⑤個体毎の観察がしづらい ⑥検疫舎や隔離舎の設置が必要である



高度雌牛肥育技術紹介

平成10年度より肉用牛生産基盤安定化支援対策事業の一つとして、生産効率向上促進事業（高度雌牛肥育）を実施してきており、このたび平成10年度導入牛分の枝肉成績についてとりまとめが完了しましたのでご紹介します。

この事業は黒毛和種雌牛の卵巣を専用の卵巣摘出器具を用いて除去し、肥育を実証展示的に行う事業であり、宮崎県ではJA延岡第2畜産センターにて実施しております。

1 卵巣除去による効果

- ① 発情による事故防止が期待できます。（群飼育が容易になります）
- ② 無発情により増体量及び肉質向上が期待できます。

2 高度雌牛肥育である理由

- ① 卵巣除去技術そのものが極めて新しい技術であり、高度な技術を要すること。
- ② 卵巣除去することによる危険性（事故）もあり、きめ細かな管理技術を要すること。
- ③ 卵巣除去により発情がこないことで、効率的な肥育（増体量）が期待できる。

卵巣除去牛の 枝肉成績	頭数 (頭)	1日増体量 (kg)	肥育日数 (日)	枝肉重量 (kg)	枝肉単価 (円)	枝肉価格 (千円)
	50	0.60	659.8	368.0	1,554	572

21世紀の「宮崎牛」はどくなる?!

《繁殖牛飼養者意向調査結果 第6報》

今回は、各種事業や制度に関する意向等について報告いたします。

(回収率 54.2% [8,129戸/約15,000戸]、平均年齢59.4才)。

8 生産者補給金制度及びその他の各種事業・制度等

(1) 肉用子牛生産者補給金制度

この補給金制度について、今後とも必要かどうかを尋ねた結果が、次のグラフである(図IV-8-1)。「必要」とする割合が73.3%と高くなっており、制度の存続が強く求められている。

図IV-8-1 肉用子牛生産者補給金制度の必要性 表IV-8-1 「必要ない」と回答した農家のその理由別農家数

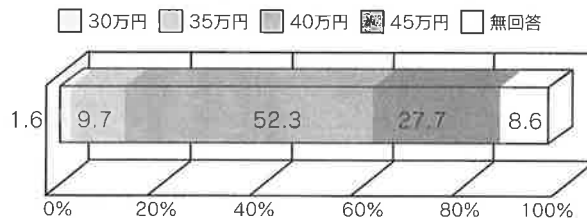


	実数	%
子牛の高値安定が見込まれる	503	57.4
補給金に頼らなくても経営をやる	250	28.5
その他	43	4.9
無回答	80	9.1
合計	876	100.0

なお、「必要ない」と回答した10.8%の農家(876戸)に対し、その理由を尋ねたところ、「子牛の高値安定が見込まれる」と回答した農家が57.4%(503戸)、「補給金に頼らなくても経営をやる」が28.5%(250戸)という結果になっている(表IV-8-1)。

肉用牛経営を行ううえで必要とする子牛価格については、「40万円」とする割合が52.3%となっており(図IV-8-2)、最近の市場における平均価格とほぼ同水準になっている。

図IV-8-2 肉用牛経営を行う上で必要な子牛価格

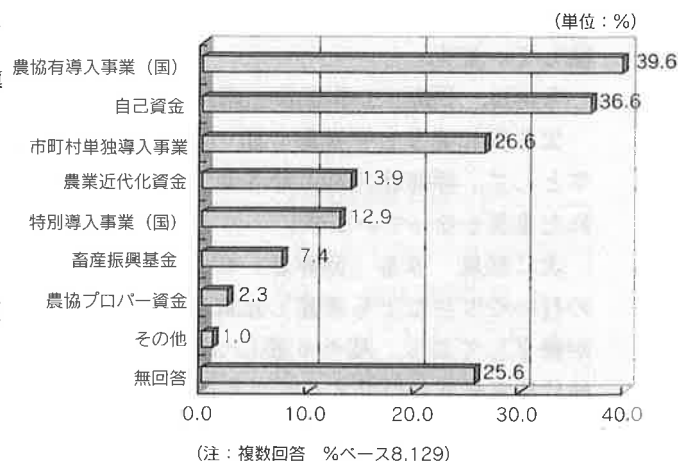


(2) 繁殖牛導入で活用したい事業等

繁殖牛の導入に際し、活用したい事業または資金について尋ねた結果が、次のグラフである(図IV-8-3)。「農協有導入事業(国)」の割合が39.6%と最も高く、次に「自己資金」の36.6%、「市町村単独導入事業」の26.6%の順となっている。

導入事業については、本県の肉用牛生産基盤を維持拡大していくうえで重要な施策であるため、今後とも積極的な事業の展開を図っていく必要がある。

図IV-8-3 繁殖牛導入で活用したい事業・資金等



(3) 認定農業者

回答農家8,129戸のうち、認定農業者になっているのは17.2%の1,401戸であり、現在申請中の農家も72戸となっている(表IV-8-4)。

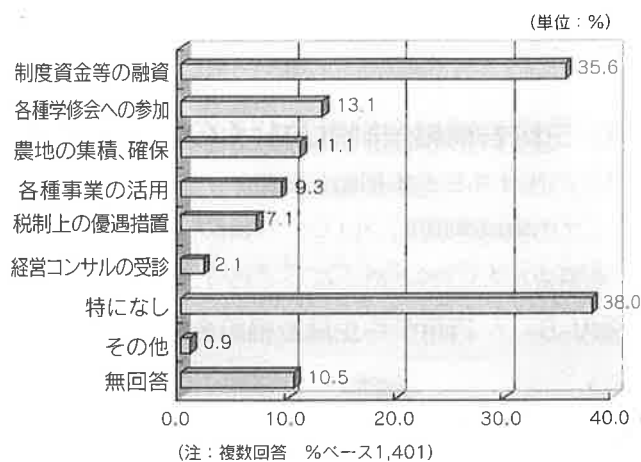
また、認定農業者にそのメリットを尋ねたところ(図IV-8-5)、「制度資金等の融資」が35.6%と最も高く、次に「各種学修会への参加」の13.1%、「農地の集積、確保」の11.1%の順となっている。

しかし、メリットは「特になし」と回答している農家が38.0%と最も高くなっており、平成7年度からスタートしたこの制度の趣旨等を再度確認し、これまで以上に企業的な経営体の育成を推進していく必要がある。

表IV-8-4 認定農業者の状況

	実数	%
認定農業者になっている	1,401	17.2
現在、申請中	72	0.9
なっていない	4,282	52.7
無回答	2,374	29.2
合計	8,129	100.0

図IV-8-5 認定農業者のメリット



平成14年度

直接検定
合格牛 紹介

県家畜改良事業団では県から産肉能力直接検定事業の委託を受け、高原町にある産肉能力検定所において年間26頭を検定し、将来の宮崎牛を担う候補種雄牛を10頭選抜しています。

これらの候補種雄牛は、現在の母牛の血統構成や推測される将来の母牛の血統構成を念頭に産肉性(特に脂肪交雑)の向上のみならず繁殖能力・哺育能力・増体能力などの種牛性も兼ね備えた候補種雄牛を選抜しています。

今回は、平成15年度第1回から第4回(年6回実施)までの選抜牛8頭を紹介します。

父牛別に見ると平茂勝4頭・照萩2頭・幸春2頭で、平茂勝の産子については、気高系を代表する種雄牛として、将来県内の兵庫系母牛の割合が高くなった母牛への交配を目的とし、増体性・種牛性も取り入れた造成となっています。

次に照萩・幸春(兵庫産)の産子については、田尻系でも安平・上福と異なった種雄牛で、今後の交配の行いやすさなども考慮し造成された種雄牛です。写真の大良勝・百万石につきましてはすでに試験交配が終了しており、残り6頭につきましては平成15年4月から毎月1頭ずつ試験交配が行われる予定で、後代検定結果が判明するのは平成18年2月からの予定です。

試験交配については、皆さんが飼っている母牛の能力も同時に判るなどメリットもありますので若い牛への交配が望まれます。農家の皆さん、試験交配へのご協力宜しくお願いします。



 **稲わらは畜産農家と耕種農家を結ぶ重要な国内資源です!**

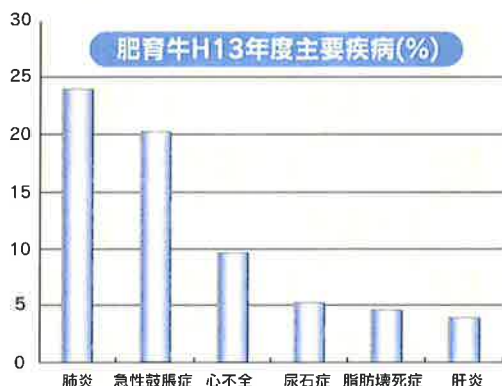
ルーメン発酵について

牛には四つの胃袋があり、その中で、最大のものがルーメン。そこでの出来事は肥育にとって重要で、かつ、病気と深く関わっています。

図は、平成13年度の家畜共済実績で、死に至った上位6位までの病気をあげています。急性鼓脹症という病気が、肺炎に次いで多いです。その他、肥育牛の病気として肝炎、肝膿瘍、ロボット病又はツツパリ病（正式名は蹄葉炎）、ルーメンパラケラトシス、大脳皮質壊死症、胃腸炎などがあり、多くはルーメンでの出来事と深い関係があります。肥育農家の頭痛の種である“食い止まり”や、肝臓廃棄もこれによるところが大きいです。

ルーメンでの出来事とは微生物による発酵で、これがなければ、牛は飼料から栄養分を得ることがほとんどできません。良好な増体と肉質を得るためには、微生物が棲みやすい環境を維持することが必要です。肥育名人の「牛飼いは虫飼い」という名言からもこのことはうなづけます。ルーメン内の環境が微生物にとって、最悪、異常になると、微生物が死滅し牛にとって重要な養分が産生されなかったり、生体にとって好ましくない物質（例えば、毒素やアレルギー性物質）が産生または遊離されたり、細菌が体内に侵入したり、ルーメンの粘膜が傷ついたりして様々な問題が生じます。

ルーメン内の環境は水と飼料に影響されますので、できるだけ新鮮な水を飲みたい時に飲みたいだけ飲める環境をつくること、濃厚飼料中の、でん粉、タンパク質、脂肪、繊維及びミネラルの過不足をなくすこと、十分な粗飼料を給与することが重要です。この様にルーメン内微生物を意識した飼養管理につとめれば肉用牛経営はきつとうまくなります。



今後の行事予定

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			西諸	諸	県																				北	北	諸	諸	県			
	西小林	小林	憲法記念日	国民の休日	こどもの日	えびの	須木	野尻																								

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		

お知らせ 今年の第52回県畜産共進会(種畜の部)は南那珂地域家畜市場で開催します!!